

やくしまに 暮らして

ネイチャーガイド
大野 睦



第十二章

記録と記憶

記録とは何か

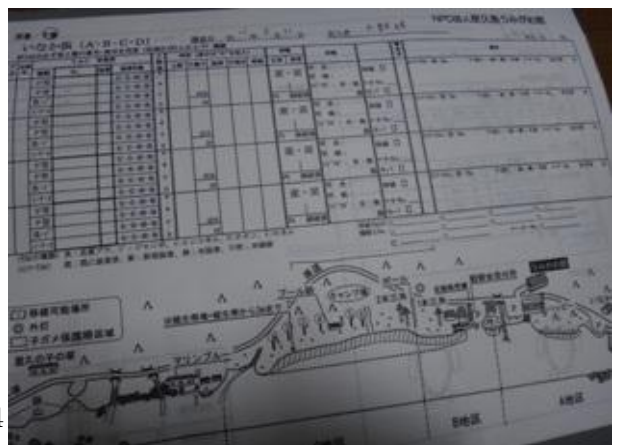
何かと便利になった時代。写真はデジタルで保存されることが主流となり、手紙から電子メール、こうして今書いている原稿も手書きからパソコン。これが今は当たり前となっている。しかし写真だけで伝わらないその場の空気。それは温度だったり、湿度だったり、また聞こえてくる波の音だったり。もちろんそれを数字や言葉で文字

として一緒に残していくことは出来るかもしれない。また、文字として残したものをまとめてデータ化することも出来るであろう。しかしながら、どれだけの記録をデータ化しても、その記録からその時の空気は伝わらないのだと改めて感じた出来事があった。

27年間の血と汗と涙の結晶

NPO法人屋久島うみがめ館の活動は今から約30年前にさかのぼる。屋久島ウミガメ研究会として発足し、ウミガメが無事に卵を産み、仔ガメが無事に海にかえることの出来る美しい浜を残そうと、まさに夜な夜な浜に出てはウミガメを確認し調査・保護活動を行ってきた世界的にも貴重なデータを蓄積してきた団体である。そのウミガメ調査に関わるデータはまずは調査票にボランティアの手によって手書きで記入される。まさに血と汗と涙の結晶である。その調査票のほとんどが放火事件に巻き込まれ焼失するという出来事である。そのことを聞いた私は何だかとても虚しい気持ちになった。その調査票にはそれぞれの調査者の確認したウミガメのタグ番号や産卵場所や時間など細かく記載されており、今では

その調査票を元にパソコンに入力。初めて上陸したのが何年前であるか、誰がそのタグを装着したのか等、様々なことがわかる。つまりはその手書きの調査票は後にしっかりとデータとして記録されており、何も失っていないのかもしれないが、私はどうしてもその失われたものの大きさに言葉を失い、そしてまた記録とは何か、と思うようになった。



記録を伝える記憶



この画像は2011年7月に台風による高波で浜が浸食し、流出してしまったウミガメの卵と、その卵と一緒に記録として入っていた私の書いたメモ。この日の出来事も私にとっては鮮明に記憶に残っているがこの画像はその記憶を伝える記録としてとても重要なものである。つまりは記録は記憶を辿る大切なデータであるが、その時のことを体験した人にしか、その記録から真実は語れないのだと思う。それは戦争であ

り震災であり、全ての出来事がきっとそうなのであろう。何はともあれ、悲しんでいる暇もなく今年もまた多くのウミガメが屋久島にやってきて卵を産んでいる。毎晩の一頭一頭の記録をしっかりと残し、日々の出来事の記憶とともに残していきたい。静かな夜にウミガメの背中越しに月を見ていたら、また仲間とともに一から始めれば良いんだと、ようやく気持ちを切り替えることが出来た。



5年ぶりのジェーン

そんな新たな気持ちをようやく持てるようになった矢先、今年のビッグニュースは右後肢がほとんどないアオウミガメ「ジェーン」の上陸。ウミガメは3～4年おきに産卵にやってくるが、ジェーンは2008年以降上陸がなく、既に記録だけでも30年ほど前から上陸が確認されており、推定でも70～80歳であろう個体である。昨年も上陸がなく、もしかしてもう寿命を終えたかと思っていたところである。ジェーンとの再会は記録を残すことの意味をあら

ためて深く感じるとともに大きな励みとなった。かつては1シーズンに6回の産卵をしたジェーンである。今年また再会出来る日が楽しみである。

NPO 法人屋久島うみがめ館

<http://www.umigame-kan.org/>

※ジェーンの画像はうみがめ館からお借りしました。

大野 睦 BLOG やくしまに暮らして

<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>